

# 食感表現でおいしく食べよう

執筆者：栃木県足利市立北中学校 田中利幸 先生

## 中学1年生

学級活動、道徳、総合的な学習の時間

日本語は食感表現が豊かであるということを知り、食感表現について考えることによって、食について興味をもち、これからについて考えるきっかけとする。



● 本書

『たべものがたり』P52、53



P52

P53



私たちは、物を食べたり飲んだりするときに、さまざまな食感を楽しんでいます。



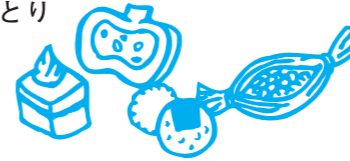
### 発問 1

次の○に当てはまる言葉を何でしようか。

- の納豆
- としたおせんべい
- のかぼちゃ
- したケーキ



- ・ねばねば
- ・ぱりっ
- ・ほくほく
- ・しっとり



「ねばねば」や「ぱりっ」などは、食感を表現する言葉ですね。「食感」の意味を再確認しましょう。

### 発問 2

日本語の食感を表現する言葉はいくつぐらいあるでしょうか。次から選びましょう。

- A 約 100語
- B 約 250語
- C 約 445語



・答えは、Cです。

Aは英語やドイツ語、Bはフランス語の数です。外国語と比べると、日本語はいかに食感表現が多いかが分かりますね。

### 発問 3

なぜ、日本語には食感表現が多いのでしょうか。



- ・四季があり、食べ物の種類が多いから。
- ・山や海や川が身近にあるから。
- ・お金があり、食糧がたくさんあるから。

P52左段12行目～右段10行目までを範読し、日本語には擬音語・擬態語が多く、擬音語・擬態語は微妙に異なる食感を表現できたり、容易に作ることができたり等、感覚を表現するのに柔軟に対応できることを確認する。

### 発問 4

ここに描かれている食べものの食感は、どんなふうに表示できるでしょうか。

『たべものがたり』

P53

開いたページの右側を提示する。



- ・ねばねば
- ・ぶるんぶるん
- ・ぶちぶち
- ・ふわふわ



一つの食べ物でも、いろんな表現があることに気づかせるため友達と自由に話す時間をとったり、クラスの意見すべてを発表させたりする。すると生徒の考えが広がり、次の活動への意欲付けになる。

## 発問 5

日本語に食感表現が多い理由がもう1つあります。何でしょうか。

- ・おいしいものが多いから。
- ・擬音語・擬態語で表現できないものもあるから。

P52右段11行目～P53の5行目までを範読し、日本人は食品そのものの食感を大切に、食感に繊細でこだわりをもっていることを確認する。

## 発問 6

ここに描かれている食べ物はどのように調理し、どんな食感なのでしょう。

『たべものがたり』  
P53  
開いたページの左側を提示する。



- ・焼いて、ぱりぱり
- ・ふかして、ほこほこ
- ・煮て、つるつる

身近な食品でも多様な調理法があり、いろんな食感表現を使っていることを再確認する。

## 発問 7

次の『 』に入る食感表現は何でしょうか。

- A このせんべいは『 』(だ)よね。
- B このサツマ芋は『 』(だ)よね。
- C このうどんは『 』(だ)よね。

- ・ぱりっとおいしい
- ・ほくほく
- ・つるつる



今までの自分を振り返ってみて、何を食べても「ウマイ」「ヤバイ」で済ませていませんか。例えばこのように・・・(と言って『 』の中に「ウマイ」「ヤバイ」をいれて読む。「ウマイ、ヤバイ」だけだと、せつかくの日本人の感覚の繊細さ、日本語のよさが消えてしまいますよね。

## 発問 8

食材の食感表現を豊かにするために、みんなはこれからどうしたらよいのでしょうか。

- ・「ウマイ」「ヤバイ」等でごまかさない。
- ・なるべく擬音語・擬態語を使い詳しく言う。

## 授業のまとめ

P53の6行目を範読する。  
「これまでの食べ物についての学習を振り返って、どんなことに気をつけていきたいかを考えよう」と呼びかけ、授業の感想を書かせる。  
各自が書き終わったら発表を行い、その後、教室に掲示する。



## 授業の注意点

- ・明るく楽しく授業を進めていきたい。そのためには生徒の活発な意見発表が必要なので、可能な限り生徒の意見は認めていきたい。
- ・意見の交換を意図的に行うようにしたい。そのために、隣の生徒同士で話し合わせたり、教室を自由に出歩いて友達と話し合わせたりと、活動の場を設定する。

## 予想される児童の答え

- ・これからは好き嫌いしないで、食べ物をいろいろ食べていこうと思う。
- ・いろんな表現に気をつけて話すようにしたい。
- ・食べ物に興味をもって生活していこうと思う。
- ・同じものでも、表現によっておいしく感じたりまずく感じたりするので、擬音語・擬態語を上手に使っていきたい。



## 参考資料

- 本書『たべものがたり』